（別冊１）令和２年度　熊本市エイズ総合対策報告書

令和２年度

各団体での取り組みについて

令和３年（２０２１年）５月

熊本市保健所　感染症対策課

各団体での取り組みについて

目次

令和２年度　熊本市エイズ総合対策推進会議　委員名簿

Ⅰ　各団体における取り組みの実施状況について・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　各委員からのご意見等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

令和２年度（2020 年度）熊本市エイズ総合対策推進会議委員名簿

	構　　成	氏　　名	所　　属
1	学識経験者	松下　修三	熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター　教授
2		前田　ひとみ	熊本大学大学院生命科学研究部　大学院保健学教育部長（教授）
3		久保　昌子	熊本大学大学院教育学研究科　教授
4	保健・医療関係	杉野　茂人	熊本市医師会　理事
5		田中　弥興	熊本市歯科医師会　副会長
6		丸目　新一	熊本市薬剤師会　会長
7		井手　州子※	熊本県看護協会　副会長
8		椎葉　浩亮	熊本県栄養士会　熊本市地域事業部副部長
9	教育・青少年団体	夏木　良博	熊本県公立高等学校ＰＴＡ連合会　会長
10		卯野木　妙子※	熊本県私立中学高等学校保護者会　理事
11		福島　隆弘※	熊本市ＰＴＡ協議会　常任理事
12		猪本　浩之	熊本市青少年健全育成連絡協議会　副会長
13		中山　知栄子※	熊本県高等学校保健会　理事
14	人権擁護関係	宮崎　奈那海※	熊本県弁護士会　弁護士
15		吉村　譲二	熊本市民生委員児童委員協議会　理事
16	企業関係	川田　晃仁	熊本商工会議所　総務部　次長
17	労働団体	柿田　将博	連合熊本地域協議会　事務局長
18	報道関係	森　紀子※	熊本日日新聞社　編集局文化生活部　次長
19	ボランティア団体関係	髙山　いくこ	熊本市食生活改善推進員協議会　理事
20		川口　弘蔵	Safety Blanket　代表

※新任

Ⅰ　各団体における取り組みの実施状況について

【学識経験者】

■熊本大学教育学部

学内でのポスターの掲示を行った。
今年度はリモートとなったため、学生と会う機会も少なく、授業で情報提供のみ行った。また、教育実習の期間も短くなったため、実習校での取組みの機会がなかった。

【保健・医療関係】

■熊本県看護協会

（1）12 月の世界エイズデーには協会内に啓発のためのポスターを掲示した。

（2）熊本県看護協会では、熊本県全域を対象に小・中・高校向け「性教育出前講座」を実施し、その中で「エイズ　ＳＴＤ対策」についても講義している。
令和 2 年度は、コロナ禍のためオンライン講義も取り入れたが、申し込みが減少し、また熊本市内の学校からの依頼はなかった。

熊本市以外 ｛小学校：0／中学校：6 校／高校：1 校｝ 計 7 校（8 回実施：同じ学校で学年別の実施有）

【人権擁護報道関係】

■熊本市民生委員児童委員協議会

新型コロナウイルスの流行がなかなか止まりません。そのような中でコロナ差別と呼ばれるような事象が起きていると聞きます。私たち民生委員の周りでも感染された人の話を聞きます。中には、自分勝手な考えで夜の街を遊び歩き、その結果感染という人もいますが、ほとんどの人は職場であったり施設であったり、本人の自助努力、責任では防げない中での感染であると思います。
周りの人が偏見や思い込みでその人を憎んだり遠ざけたりすることは、まさにエイズ感染者に対する差別と同様だと思います。
民児協では、定例会等でそのような状況に出会った時の適切な対応を民生委員・児童委員の皆さんにお願いしているところです。

【報道関係】

■熊本日日新聞社

（1）実施状況について（熊日朝刊に掲載された関連記事）

2020（令和２）年度は、エイズに直接関係する記事の掲載はなかったが、コロナ禍による長期休校などを背景に中高生の妊娠相談や性被害に関する相談などが増えていると聞き、いくつかの記事を通して警鐘を鳴らした。

夏休みに入るタイミングに合わせて、「中高生や保護者に向けて知ってほしいこと」として産婦人科医のインタビューを掲載。3 月 1，3，4 日の 3 回「中高生の妊娠 県内の支援現場から」のタイトルで慈恵病院と福田病院の取り組みを報告し、締めくくりの 3 回目に産婦人科医のインタビューを連載した。

記事を出すにあたって心掛けたのは、必ず相談窓口の連絡先を掲載すること。記事を見て問い合わせや相談をしたいと考える人がいると想定し、必要な情報は何度でも掲載するようにしている。

県が毎週発表している「感染症情報」で、本年度は梅毒患者の増加をトピック（見出し）に取り上げた記事を 7 件掲載した。

記事には人数だけでなく、梅毒の症状の特徴と感染経路、予防につながる行動も盛り込むようにしている。感染症情報は若い人にも積極的に届けたい情報として、インターネットの「熊日電子版」にも毎週掲載している。

今後は、コロナの影響により懸念される事柄（性感染症の受診控えや検査機会の減少と、その危険性）にフォーカスを当てた記事も検討したい。

（熊本日日新聞：20200807）

中高生の性

妊娠 自分で解決できますか

信頼できる大人に相談を

熊本市の産婦人科医 片渕美和子さんに聞く

夏休みは、子どもの性に関するトラブルが増える時期でもある。県内で中高生向けの性教育講話を20年以上続けている産婦人科医の片渕美和子さん(63)＝熊本市＝に、10代に伝えたいことを聞いた。

（聞き手・豊田宏美）

世間では「中高生の予期せぬ妊娠」という言い方をよくしますが、本当に予期しないことでしょうか。中高生の6～7割が「お互いに納得していればセックスしてもいい」と考えているという統計もあります。どう納得し、その結果起きることをどう解決するのか、その覚悟はあるのでしょうか。

性教育の講話を始めたのは、夏休み明けに妊娠や性感染症で来院する高校生を目の当たりにしたからです。思春期に人恋しくなったり、性に関心が出てくるのは当然のことです。性教育はピルやコンドームの説明だけではなく、「好きな人と一緒に生きたい」と思う中高生が、これからどう生きるかを自分で考える機会にしてほしいと思っています。

全国的に15歳未満の出産が毎年40人ほど報告されています。県内でも2017年度は、15歳未満の人工妊娠中絶が1人（20歳未満は248人）ありました。不規則でも月経のある女性は、セックスをすれば妊娠する可能性があります。

赤ちゃんを産んで、2人で育てる覚悟や準備もできないのであれば、妊娠を避ける努力が必要です。セックスをしないという選択をしてほしいですが、避妊の方法は、コンドームや緊急避妊薬（アフターピル）を含めいくつかあります。アフターピルはオンライン診療でも処方できますが、早く飲めばそれだけ効果が高いので、すぐに病院を受診してください。

私は、人工妊娠中絶は女性が自分自身を守るための最終手段と考えています。妊娠も性感染症も自分だけで起こることではありません。身近な大人からレイプ被害を受けることもあります。レイプによる妊娠や性感染症は犯罪の結果ですし、避けられなかった妊娠や性感染症は解決しなければなりません。

彼氏や彼女など付き合っている相手と、対等に話ができていますか？ 社会の中でつくられた男性像や女性像に縛られてはいませんか？ 問題が起きて自分たち解決できないのであれば、信頼できる大人に相談してください。県内にも「ゆあさいどくまもと」（熊本市中央区）などの相談機関があります。そして大人は、子どもの声に耳を傾け、一緒に考え、信頼される存在であってほしいと思います。

【メモ】「ゆあさいどくまもと」は性暴力被害者のサポートセンター。公益社団法人くまもと被害者支援センターが県の委託を受け運営する。24時間対応のホットライン☎096（386）5555。

◇かたぶち・みわこ　1955年生まれ、天草市出身。熊本大医学部卒。元熊本保健科学大教授。現在は野口病院（熊本市）の総合健診センターや山鹿市民医療センターなどの非常勤医。産婦人科学会専門医、性感染症学会認定医。熊本市在住。

性感染症にも注意

性行為は妊娠に加え性感染症のリスクも伴う。片渕美和子医師は、若年層に特に注意してほしい性感染症として性器クラミジア感染症、淋菌感染症、梅毒を挙げる。

県健康危機管理課によると、2019年の15～19歳の県内患者数は、性器クラミジア感染症が69人、淋菌感染症8人、梅毒4人だった。性器クラミジア感染症は女性の場合、急激な腹痛（骨盤腹膜炎や肝周囲炎）が起き救急搬送されるケースも。淋菌感染症は男性に多く、排尿時に強い痛みが出る。梅毒は感染部位にしこりができたり、股の付け根のリンパ節が腫れたりする。

片渕さんは「性感染症は治療薬があるので、体の異変や感染の不安がある場合は早く検査と治療を受けてほしい」と言う。県内の各保健所では無料・匿名で検査を受けることができるが、新型コロナの影響で休止の可能性もあるので事前に問い合わせを。

熊本日日新聞：朝刊

（熊本日日新聞：20210304）

中高生の妊娠 県内の支援現場から ▶下

男性が当事者意識を

避妊の方法 具体的に教えて

産婦人科医・田畑愛さんに聞く

中高生が望まない妊娠をしないために、何をどのように伝えるべきか。中高生向けに性教育講話をしている「フォーシーズンズレディースクリニック」（熊本市中央区）の田畑愛院長（産婦人科医）に聞いた。

（深川杏樹）

―講話ではどんな話をしていますか。

「思春期の体の変化や月経の仕組み、性感染症など基本的な知識に加え、交際相手からの暴力（デートDV）など、男女交際で気を付けてほしいことを伝えている。生徒たちが『自分にとって身近な問題だ』と感じられるよう、分かりやすく具体的に話す」

「強調したいのは、妊娠や出産が女性だけの問題ではないということだ。中学生向けの講演では、学校のトイレで産んだ新生児の遺体を遺棄した事件を取り上げた。妊娠には男性が必ず関わっているのに、罪に問われない。どう思うかと問い掛けたら、みんな疑問に思ったようだ。男性が妊娠に関して当事者意識を持つように、意識して話している」

―中高生の妊娠の現状をどう見ますか。

「女性だけが思い悩み、中絶するか出産するかの決断と、身体的にも精神的にも大きな負担を強いられている。ジェンダー平等が叫ばれる今でも、その構造は変わらない。性暴力の末の妊娠も目立つ。性被害の事実を隠したいとの思いが先に立ち、泣き寝入りする被害者も見てきた」

「若年での妊娠や出産は体に大きな負担がかかる。中絶するにしても、妊娠週数が進むほど出血量が多くなる。中絶手術の際、相手の男性にどうしてこうなったかを聞くと、『妊娠したとしてもおろせばいいと思った』『妊娠のことまで考えていなかった』という無責任な答えが返ってくる。現状を変えるには、男性へのアプローチが不可欠だ」

―望まない妊娠を防ぐために、どんな取り組みが必要ですか。

「現状に即した性教育を続け、正しい知識を教えることだ。中高生が、自分の力だけで子どもを産み育てることはできない。責任を持って子どもを養育できない間は性交しないことも強調している」

「避妊の方法を具体的に教えることも重要だ。避妊は、男性だけがするものではない。私は『女性主導』の避妊方法として、低用量ピルの服用を勧めている。性感染症予防のため、ピルを飲んでいたとしてもコンドームは必須だ」

「中学生にもなれば、セックスがどんなものか知っている。学校の授業より、アダルトビデオやSNSの情報が先行するため、性は『いやらしいこと』というイメージが定着してしまう。大人にも性教育について抵抗がある人は少なくないが、性教育は人権につながる大事なこと。社会全体がそういう意識を持ってほしい」

◇たばた・あい　福岡市出身、熊本大医学部卒。同大病院、飯塚病院（福岡県）などを経て、2007年、田畑こどもレディースクリニック副院長。14年、フォーシーズンズレディースクリニック開業。19年度から、熊本市教育委員会が中高生を対象に開く「いのちの大切さを考える講演会」の講師を務め、性教育に取り組んでいる。日本産婦人科学会専門医。53歳。

予期せぬ妊娠に関する相談窓口▽慈恵病院☎0120（783）449＝24時間受け付け▽熊本乳児院☎080（9068）7528＝24時間受け付け▽県女性相談センター☎096（381）4340＝受け付けは月～土曜の午前9時～午後8時。

福田病院と関連クリニックが設けている中高生の妊娠相談窓口▽福田病院☎096（322）2995▽まつばせレディースクリニック☎0964（34）0303▽菊陽レディースクリニック☎096（213）5656▽ソフィアレディースクリニック水道町☎096（322）2996。受け付けはいずれも午前9時～午後5時（日曜・祝日を除く）。

（熊本日日新聞：20200513）

新型コロナ

中高生の妊娠相談増加

慈恵病院など 休校長期化影響か

新型コロナウイルスの影響で休校が続く中、県内の妊娠相談窓口に中高生からの悩み相談が多数寄せられている。子どもだけで家で過ごす状態の長期化が背景にあるとみられ、関係者は望まない妊娠の増加を懸念する。

24時間対応の妊娠相談窓口を設置する慈恵病院（熊本市西区）は4月、県内外の中高生から15件の相談を受けた。2007年の開設以来、4月の件数では最多。相談件数に占める割合も例年（5～7％）から倍増し13％に上った。

「生理が遅れており、妊娠したかもしれない」など女性からの相談のほか、「彼女につわりのような症状がある」と悩む男性からの連絡も。「妊娠検査薬で陽性が出た」などと対応を急ぐケースもあり、看護師や助産師らが助言している。

同病院の蓮田真琴・新生児相談室長は「コンドームを着ければ100％避妊できるなど誤った認識が目立つ。蓮田健副院長は「休校が3カ月に及び、望まない妊娠に悩む若者は今後さらに増えるのではないか」と心配する。

熊本市が「産前・産後母子支援事業」を委託する熊本乳児院の24時間相談窓口も、高校生～20代前半の若年層からの相談が増加傾向にある。

若年層からの相談は通常月1件程度だが、2～4月は計10件ほどに激増したという。担当者は「避妊や性感染症について正しい知識がないままの性行為は危険。早めの相談を」と呼び掛ける。

妊娠相談の専用窓口は、慈恵病院☎012（783）449▽熊本乳児院☎080（9068）7528▽県女性相談センター☎096（381）4340＝月～土曜、午前9時～午後8時。

（深川杏樹）

慈恵病院が運営する「SOS赤ちゃんとお母さんの妊娠相談」のホームページ

（熊本日日新聞：20201016）

感染症情報

県内の患者報告数（10・5～10・11）

病名	患者報告数		定点当たり
インフルエンザ	0	(0)	0.00
RSウイルス感染症	0	(0)	0.00
咽頭結膜熱	2	(8)	0.04
A群溶連菌咽頭炎	38	(25)	0.76
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0	(0)	0.00
感染性胃腸炎	94	(85)	1.88
水痘	8	(6)	0.16
手足口病	7	(3)	0.14
リンゴ病	0	(1)	0.00
突発性発疹	35	(32)	0.70
ヘルパンギーナ	12	(26)	0.24
おたふくかぜ	1	(5)	0.02
はやり目	5	(6)	0.56
無菌性髄膜炎	0	(0)	0.00
マイコプラズマ肺炎	0	(0)	0.00

※（）内は前週。患者報告数は定点医療機関からの報告数。定点医療機関はインフルエンザが80カ所、その他は9～50カ所。

梅毒患者3人 今年累計100人

5～11日の県感染症情報によると、性行為で感染する梅毒の患者3人の報告があった。今年の累計は100人となり、前年同期（112人）より少ないものの、県健康危機管理課は「今後も増加が懸念されており、コンドーム使用や早めの受診を心掛けてほしい」と呼び掛ける。

梅毒は主に性行為で他人の粘膜や皮膚に直接触れることで感染。感染後約3週間の初期には感染部位にしこりができたり、股の付け根のリンパ節が腫れたりする。「治療せずほったん症状が治まっても、3カ月後や数年後に異なる症状が出て死亡することもある。妊婦は胎児に感染する場合もあり、注意が必要」と同課。

全国では2013年から増加傾向にあり、県内では17年から右肩上がりに急増。19年の累計は135人だった。患者の年齢層は男性が20～70代と幅広く、女性は20～30代と比較的若い人が多い。

一方、県内50定点で調べている感染性胃腸炎は94人（前週比9人増）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎38人（13人増）、突発性発疹35人（3人増）。全数報告分は梅毒のほか、腸管出血性大腸菌感染症1人など。

（川崎浩平）

（熊本日日新聞：20210226）

感染症情報

県内の患者報告数（2・15～2・21）

病名	患者報告数		定点当たり
インフルエンザ	0	(0)	0.00
RSウイルス感染症	80	(100)	1.60
咽頭結膜熱	11	(13)	0.22
A群溶連菌咽頭炎	35	(23)	0.70
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0	(0)	0.00
感染性胃腸炎	101	(110)	2.02
水痘	3	(6)	0.06
手足口病	5	(9)	0.10
リンゴ病	4	(0)	0.08
突発性発疹	27	(27)	0.54
ヘルパンギーナ	2	(4)	0.04
おたふくかぜ	1	(2)	0.02
はやり目	0	(2)	0.00
無菌性髄膜炎	1	(1)	0.07
マイコプラズマ肺炎	0	(1)	0.00

※（）内は前週。患者報告数は定点医療機関からの報告数。定点医療機関はインフルエンザが80カ所、その他は9～50カ所。

梅毒報告15人に 昨年並み高水準

15～21日の県感染症情報によると、性的接触でうつる梅毒の患者3人が報告された。今年の累計は15人となった。県はコンドームの使用を推奨し、皮膚や粘膜に異常があった場合は早めの受診を呼び掛けている。

県健康危機管理課によると、感染者の粘膜や皮膚と直接接触することでうつる。最初の3週間は感染部位にしこりができたり、股の付け根のリンパ節が腫れたりする。妊婦が感染すると胎盤を通じて胎児に感染、死産や早産につながる恐れもあるため注意が必要だ。

県内では2017年から報告数が急増。昨年は最多の136人だった。今年も昨年と同ペースで増えている。男性は20～50代、女性は20～40代が多い。

県内50定点の医療機関から、感染性胃腸炎101人（前週比9人減）、RSウイルス感染症80人（20人減）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎35人（12人増）の報告もあった。全数報告分は梅毒のほか、侵襲性肺炎球菌感染症1人だった。

（川崎浩平）

Ⅱ　各委員からのご意見等

【保健・医療関係】

■熊本県看護協会

（1）エイズ・ＳＴＩ対策全般について

中学３年生を対象とした「エイズ・性感染症予防啓発用動画ＤＶＤ」を見せていただきましたが、わかりやすく作成されています。コロナ禍で出前講座が困難であり、大切な時期の中学３年生への啓発を継続していくためにも役立つものと思いました。

（2）エイズ対策推進会議について

会議で頂く「熊本市エイズ総合対策　報告書」は全国及び熊本市の感染状況や熊本市の取組等がよくわかり、これを協会内職員や理事会などで報告しております。今回、松下先生の講話のＤＶＤ（エイズの現状と課題）を頂き、医療関係者等が知るべき正しい知識のＤＶＤなので、上記の報告等に使用するためにも会議とは別に講話のみのＤＶＤを作成していただくとリアルに伝わると思いました。

【学識経験者】

■熊本大学教育学部

（1）エイズ・ＳＴＩ対策全般について

毎回、DVD や資料をお送りいただきありがとうございます。
今後、学生への指導に活用していきたいと考えています。

（2）エイズ対策推進会議について

リモート会議ができるとよい

【報道関係】

■熊本日日新聞社

コロナの影響で、2020 年度は全体的に積極的な施策展開が控えられたが、今後は感染防止策と両立可能な形で再開されると思う。活動は一度停滞してしまうと、そこから抜け出すためには従前の２倍のパワーが必要だと思うので、より一層、情報発信と啓発に力を入れてほしい。コロナを機に感染症への関心は高まっている。このピンチをチャンスととらえ、積極的な取り組みを期待したい。
熊日としても、本会議などを通じて情報を関係期間と共有・交換し、「どうすれば必要な情報を必要な人に届けられるか」を一緒に考えていきたい。